

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター令和 7 年度業務実績評価に係る 評価委員会の意見について（案）

令和 7 年度における地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターの業務については、「概ね着実な業務の進捗状況にある」と認められる。評価の決定に際しては、次の点について留意されたい。

- ・ 病院部門では、フレイルの視点をより一層重視した早期からの「予防し、治し支える医療」の実現に向けて、重点医療を中心に的確に取り組んでいる。高齢者の急性期医療を担う病院として、急性期患者の積極的な受入れに取り組むとともに、公的医療機関として、地域における中核的な役割を果たしながら、地域の医療機関等との連携を更に推進することが求められる。
- ・ 研究部門では、膵臓がんに対する新たな治療戦略を提示などの高齢者に特有な疾患と老年症候群の克服に向けた研究、損失に訴求したメッセージが高齢者の行動意欲向上に有効であることを明らかにするなどの高齢者の地域での生活を支える研究等、成果を上げている。引き続き、病院と研究所とを一体的に運営する法人の特長を生かした研究を推進することが求められる。
- ・ 経営部門では、財務面において、主要な経営指標である経常収支比率や医業収支比率が前年度を下回り目標に届いておらず、計画を上回る純損失を計上したことから、法人一丸となり経営基盤の強化に取り組むことが求められる。

第四期中期目標の達成に向けては、法人が次の取組を推進することを期待する。

- ・ 第四期中期目標期間に新たに重点医療に位置付けた高齢者糖尿病医療について、治療と合わせたフレイル予防・認知症予防の取組の推進や得られた知見の発信など、法人の特色を生かした医療の充実に取り組んでほしい。
- ・ 救急医療について、救急車による患者受入数の増加に向けて一層の取組強化を行うとともに、法人の強みを生かした高度な医療提供を必要とする患者の積極的な受入れに取り組んでほしい。
- ・ 医療経営を取り巻く環境が厳しい中であっても、経営基盤を安定させ適切な運営ができるよう、収入確保とコスト削減に向けて診療科ごとの入院単価等の経営指標をきめ細かく把握・分析し、実効性のある改善策に取り組んでほしい。